

デジタル技術による
文化財情報の記録と利活用
報告タイトル総目録 2024

独立行政法人国立文化財機構
奈良文化財研究所
企画調整部 文化財情報研究室

例言

本目録は、奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室が刊行してきた『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』(1～6号)の報告タイトルを内容で分類し、リスト化したものである。

内容の分類については、武内樹治(企画調整部文化財情報研究室アソシエイトフェロー)が AI (ChatGPT)を用いながら行った。

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』(通称:デジタル研究報告)について

2019年1月に1号を刊行し、その後毎年度刊行している。1～5号については、全国遺跡報告総覧にてPDFを公開しており、6号については全国遺跡報告総覧にて「オンラインライブラリー」としてウェブ上で公開している。

収録内容については以下の報告・論考を中心としている。

1. 奈良文化財研究所において地方公共団体等の文化財担当職員向けに開催される文化財担当者研修のうち、企画調整部文化財情報研究室が企画した以下の研修の講義内容に各講師が加筆・修正したもの

- ・「遺跡情報記録課程」(2018年)
- ・「遺跡 GIS 課程」(2019年、2021年)
- ・「文化財デジタルアーカイブ課程」(2020年、2022年)
- ・「遺跡地図・GIS 課程」(2023年)

2. デジタル技術と文化財情報に関する企画の講義・報告内容に各講師が加筆・修正したもの

- ・考古学・文化財データサイエンス研究集会「考古学ビッグデータの可能性と世界的潮流」(2019年9月10・11日)
- ・日本考古学協会第87回総会研究発表 セッション4 オープンサイエンス時代の考古学・埋蔵文化財情報(2021年5月23日)

3. デジタル技術利活用の先進事例に関する論考・報告

凡例

「タイトル」、著者名[執筆・報告時の所属]、デジタル研究報告号数

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』

発行 奈良文化財研究所 文化財情報研究室

1号 2019 年発行

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用』奈良文化財研究所研究報告 21

<https://sitereports.nabunken.go.jp/33189>



2号 2020 年発行

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用－オープンサイエンス・データ長期保管・知的財産権・GIS－』奈良文化財研究所研究報告 24

<https://sitereports.nabunken.go.jp/69974>



3号 2021 年発行

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用－著作権・文化財動画・GIS・三次元データ・電子公開』奈良文化財研究所研究報告 27

<https://sitereports.nabunken.go.jp/90271>



4号 2022 年発行

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用－オープンサイエンス・Wikipedia・GIGA スクール・三次元データ・GIS－』奈良文化財研究所研究報告 33

<https://sitereports.nabunken.go.jp/115736>



5号 2023 年発行

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用－LiDAR・3D データ・デジタルアーカイブ・SNS・GIS・知的財産権－』奈良文化財研究所研究報告 37

<https://sitereports.nabunken.go.jp/130529>



6号 2024 年発行

『デジタル技術による文化財情報の記録と利活用－遺跡地図・3D・GIS・モバイルスキャン・デジタルアーカイブ・文化財防災－』奈良文化財研究所研究報告 41

<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja/online-library/1>



■3 次元データ

3 次元データの活用と課題

「三次元データの可能性 ―活用と課題―」、野口 淳[奈良文化財研究所]、2号

「デジタル技術を利用した金工品の実測図作成法試論」、諫早 直人[京都府立大学]、3号

「文化財 3次元データ概論 2022」、野口 淳[金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員研究員]、5号

「古代瓦の三次元データを用いたシェーディング処理の検討」、仲林 篤史[京都府立大学共同研究員]、5号

「埴輪研究における三次元計測の可能性と課題」、廣瀬 覚[奈良文化財研究所]、5号

「3D 技術を活用した石材刻印の可視化手法 ―CloudCompare で見えない線刻を鮮明化する―」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、5号

3 次元データの保存と公開

「公開を目的とした3D モデルのデータ量削減方法」、仲林 篤史[東大阪市]、3号

「デジタルアーカイブとしての Matterport と 3D モデル公開」、林 正樹[富田林市教育委員会]、4号

「文化財 3D モデルをインターネットで公開する―歴史系博物館・埋蔵文化財センター等の sketchfab 開設状況―」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、5号

「Sketchfab に公開する 3D モデルの魅力的な見せ方」、仲林 篤史[京都府立大学共同研究員]、5号

「3D 写真計測のアーカイブを考える」、野口 淳[公立小松大学次世代考古学研究センター]、6号

「文化財3D モデル公開に関する検討会議」、岩佐 朋樹[長崎県埋蔵文化財センター(当時)] 岩村 孝平[岡山県備前市教育委員会] 宮本 利邦[阿蘇市教育委員会] 橋口 剛士[嘉島町教育委員会(当時)] 金澤 舞[和歌山県立紀伊風土記の丘] 高田 祐一[奈良文化財研究所] 上村 緑[和歌山県立紀伊風土記の丘] 神 啓崇[福岡市] 水戸部 秀樹[山形県埋蔵文化財センター] 石井 淳平[厚沢部町農業委員会(当時)] 中村 良介[産業技術総合研究所] 仲林 篤史[東大阪市(当時)] 堀木 真美子[愛知県埋蔵文化財センター] 野口 淳[金沢大学(当時)] 林 正樹[富田林市]、6号

スマートフォン・モバイルデバイス・ドローン(LiDAR)の活用

- 「市民が行う古墳の3次元計測」、岩村 孝平[岡山県備前市地域おこし協力隊]、4号
- 「モバイル端末によるデジタルアーカイブ手法と利活用」、モバイルスキャン協会、5号
- 「スマホ LiDAR による文化財調査 ―ワークフロー確立に向けた基礎整理―」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、5号
- 「一人でできるフィールドワーク ～iPad LiDAR を利用した地形計測～」、石井 淳平[厚沢部町農業委員会]、5号
- 「モバイルスキャンによる迅速な遺構計測と埋蔵文化財調査への効果―東京都小金井市平代坂横穴墓の事例―」、野口 淳[金沢大学] 中島 将太[NPO 法人井草文化財研究所] 高木 翼郎[小金井市教育委員会]、5号
- 「UAV-LiDAR による遺跡・地形計測の仕様と実施」、野口 淳[金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員研究員] 中村 良介[産業技術総合研究所] 金澤 舞[和歌山県立紀伊風土記の丘]、5号
- 「LiDAR による3次元モデル作成の利点と可能性について」、山田 暁[西宮市]、5号
- 「UAV-LiDAR による小豆島加藤家石丁場の高精度地形計測」、高田 祐一[奈良文化財研究所] 中村 良介[産業技術総合研究所] 堤 千明[産業技術総合研究所]、6号
- 「広島県教育委員会における「LiDAR・3Dを活用した測量・実測作業マニュアル」策定の取組について」、沖 憲明 [広島県立埋蔵文化財センター]、6号

フォトグラメトリとレーザースキャン

- 「石丁場のデジタル調査方法―フォトグラメトリ・ドローン・RTK-GNSS・LiDAR―」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、4号
- 「フォトグラメトリとレーザースキャンによる3Dデータ活用」、平山 智予[株式会社ホロラボ]、6号
- 「興戸2号墳(京田辺市)出土家形埴輪破片の3Dデジタル復元作業の詳細」、仲林 篤史[京都府立大学(共同研究員)] 溝口 泰久[京都府教育庁] 吉永 健人[京都府立大学大学院]、6号

教育機関・研究機関・博物館での実践

- 「ミュージアムにおける3Dモデルの公開―大阪歴史博物館の場合―」、加藤 俊吾[大阪歴史博物館]、3号

「熊本県での文化財三次元データ活用の事例」、木村 龍生[熊本県教育庁教育総務局文化課]、3号

「大学による考古資料の3Dデータ化と公開・活用」、中村 耕作[國學院大學栃木短期大学]、4号

「Unityと3Dスキャンを利用して作成したデジタル博物館」、林 啓太[長野市立更北中学校]、6号

デジタルツインとBIMの応用

「デジタルツイン構築技術の文化財への応用」、中村 良介[産業技術総合研究所]、5号

「東京都デジタルツイン実現プロジェクトと文化財データ」、清水 直哉[東京都デジタルサービス局(執筆当時)]、5号

「史跡復元BIMと史跡メタバースで魅力ある街づくり」、桑山 優樹[株式会社桑山瓦 ワイクウーデザイン]、5号

「瓦葺き文化財BIMの取組」、桑山 優樹[株式会社桑山瓦 ワイクウーデザイン]、6号

PEAKITの活用

「PEAKIT画像を活用した土器実測図と遺物図版 ～岩手県山田町川目沢田I遺跡の事例～」、須原 拓[(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査センター]、6号

「PEAKITによる旧石器の3D記録」、国武 貞克[奈良文化財研究所]、6号

「考古遺物の記録における本質的課題とその解決へのプロセス」、横山 真[株式会社ラング／岩手大学平泉文化研究センター]、6号

■GISの利用

地理情報システムと埋蔵文化財

「文化財調査におけるGISの基礎知識とQGISの実践的操作方法」、石井 淳平[厚沢部町]、1号

「東京都府中市におけるGISの利活用」、廣瀬真理子[府中市役所 ふるさと文化財課]、1号

「GISの基礎 —文化財におけるGIS利用の概要—」、山口 欧志[奈良文化財研究所]、2号

- 「地理院地図の利活用」、宮本 歩[国土地理院近畿地方測量部]、2号
- 「文化財業務で使う GIS -QGIS を利用した実践的操作-」、石井 淳平[厚沢部町]、2号
- 「文化財調査での GIS の利用」、永恵 裕和[兵庫県教育委員会]、2号
- 「考古学・文化財地理空間情報のオープンデータ化、整備と活用」、野口 淳[奈良文化財研究所]、3号
- 「地理院地図と地理院タイルの利活用」、清水 乙彦[国土地理院近畿地方測量部]、4号
- 「QGIS を利用した発掘調査記録のデジタル化」、石井 淳平[厚部町農業委員会]、4号
- 「文化財総覧 WebGIS: データと機能」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、4号
- 「考古学・埋蔵文化財 GIS データの標準化、ファイルフォーマットオープン化」、野口 淳[奈良文化財研究所]、4号
- 「行政へのオープンソース GIS の導入とオープンデータの事例」、喜多 耕一[北海道]、4号
- 「QGIS で旧石器時代遺跡の遺物分布図を作成する」、国武 貞克[奈良文化財研究所]、5号
- 「三次元データを GIS で利用する」、石井 淳平[厚沢部町教育委会]、6号

遺跡地図と地理情報システム

- 「京都府・市町村共同統合型地理情報システム(GIS)における遺跡マップの活用について」、中居 和志[京都府教育庁指導部文化財保護課]、1号
- 「福岡市埋蔵文化財課の GIS とその活用」、板倉 有大[福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課]、1号
- 「刊行物および GIS による遺跡地図の公開状況」、高田 祐一[奈良文化財研究所] 武内 樹治 [立命館大学大学院]、3号
- 「遺跡地図の行政的な位置づけとデジタル化動向等について」、藤井 幸司[文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門]、4号
- 「福岡市埋蔵文化財課の GIS とその活用」、森本 幹彦[福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課]、4号
- 「遺跡情報システム(GIS)を用いた埋蔵文化財の保護と活用」、川崎 志乃[四日市市役所]、5号
- 「QGIS と法務省登記所備付地図データを活用した遺跡照会フローの構築」、宮本 利邦[阿蘇市教育委員会教育部教育課]、6号

「埼玉県ふじみ野市遺跡文化財情報サイトの運用について」、鍋島 直久[ふじみ野市教育委員会] 岡崎 裕子[ふじみ野市教育委員会]、6号

「遺跡位置情報に関する検討会」、沖 憲明[広島県立埋蔵文化財センター] 高田 祐一[奈良文化財研究所] 国武 貞克[奈良文化財研究所] 仲林 篤史[城陽市教育委員会事務局] 楠 寛輝[松山市役所] 野口 淳[公立小松大学] 野口 舞[東京都教育委員会]、6号

「遺跡地図 GIS の 3D 化：課題と展望」、野口 淳[公立小松大学次世代考古学研究センター・産業技術総合研究所]、6号

現地調査とデジタルアーカイブ

「デジタル踏査のための、現在と過去の調査データのジオリファレンス」、永恵 裕和[兵庫県立考古博物館]、6号

「広域共通グリッドと QGIS によるグリッド設定図の作成」、高桑 登[公益財団法人山形県埋蔵文化財センター]、6号

「古地図・絵図のデジタル・アーカイブー日本版 Map Warper についてー」、武内 樹治[立命館大学大学院・日本学術振興会特別研究員(DC)]、6号

「水中遺跡を調査するーサイドスキャンソナーと ReefMaster を用いた海底面探査ー」、武内 樹治[立命館大学大学院・日本学術振興会特別研究員(DC)] 高田 祐一[奈良文化財研究所]、6号

「Illustrator で作成した遺跡地図や遺構図を GIS データ化する」、武内 樹治[立命館大学大学院・日本学術振興会特別研究員(DC)]、6号

■文化財調査・研究・保護へのデジタル技術の導入(総論)

「埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について」、文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門、1号

「文化財写真におけるデジタル技術の導入」、中村 一郎[奈良文化財研究所]、1号

「3次元技術等によるデジタル技術の導入」、金田 明大[奈良文化財研究所]、1号

「文化財におけるデジタル技術活用の長期的動向」、森本 晋[奈良文化財研究所]、1号

「発掘調査から報告書公開までのデジタル技術」、水戸部秀樹[公益財団法人山形県埋蔵文化財センター]、2号

「人口減少が著しい飛騨市で文化財データ公開を進める意義」、三好 清超[飛騨市教育委員会]、3号

「関係人口と共働した文化財と博物館資料の活用－飛騨市モデルの報告－」、三好 清超[飛騨市教育委員会]、4号

「博物館のデジタル化：公共化と価値共創」、中尾 智行[文化庁 博物館支援調査官]、4号

「考古学・文化財デジタルデータのための Guides to Good Practice 作成の経緯と意義」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、4号

「GIS・RTK-GNSS・フォトグラメトリによる埋蔵文化財試掘確認調査のデジタルフロー」、宮本 利邦[阿蘇市教育委員会教育部教育課]、5号

「最新技術による文化遺産保護と市民体験の拡張」、野口 淳[公立小松大学次世代考古学研究センター・産業技術総合研究所]、6号

「松山市における埋蔵文化財関係業務の現状－周知の埋蔵文化財包蔵地の管理を中心に－」、楠 寛輝 [松山市教育委員会文化財課]、6号

「文化財とハザードマップ－災害のリスクを未然に調査する－」、高田 祐一[奈良文化財研究所] 武内 樹治[立命館大学大学院・日本学術振興会特別研究員(DC)]、6号

「災害データの公開状況調査」、三谷 直哉[奈良文化財研究所]、6号

「タブレットを用いた埋蔵文化財調査の業務改善」、川崎 志乃[四日市市役所(当時)]、6号

「公設試験研究機関で蛍光 X 線分析をやってみた」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、6号

■データ公開とアーカイブ

「海外の日本研究と知のネットワーク－デジタルアーカイブのユーザを考える－」、江上 敏哲 [国際日本文化研究センター]、2号

「文化財情報を真の公共財とするために」、福島 幸宏[東京大学大学院情報学環]、2号

「デジタル時代において文化財専門家に求められること」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、3号

「考古学デジタルデータのアーカイブにおけるビジネスモデル－イギリス ADS の事例から－」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、3号

「文化財データ・データベース・デジタルアーカイブスの公開について考える」、野口 淳[金沢大学 古代文明・文化資源学研究所客員研究員]、5号

- 「文化財データリポジトリと文化財オンラインライブラリーの公開 : データ再利用性および論文アクセス向上のためのプラットフォーム」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、6号
- 「考古学・埋蔵文化財の情報プラットフォームとしての全国遺跡報告総覧—When Where What で検索できるシステムを目指して—」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、4号
- 「和歌山県立紀伊風土記の丘におけるデジタル・アーカイブとその活用」、金澤 舞[和歌山県立紀伊風土記の丘]、5号
- 「地域資料のデジタルアーカイブ化による利活用と保存について—青森県史デジタルアーカイブシステム構築と文化財及びテキストデータのあり方—」、古川 淳一[青森県環境生活部県民生活文化課] 伊藤由美子[青森県教育庁文化財保護課]、5号
- 「基礎自治体による小規模デジタルアーカイブ作成事例—まつばらいろはかるた関連文化財の公開を目指して—」、大矢 祐司[松原市教育委員会]、5号
- 「アジア諸国における博物館デジタルアーカイブスの動向: ICCROM-CollAsia2023 プログラムでの体験から」、野口 淳[公立小松大学次世代考古学研究センター]、6号
- 「「越谷市役所」を対象とした全庁的なデジタルアーカイブの構築」、菟原 雄大[越谷市教育委員会生涯学習課]、6号
- 「兵庫県立歴史博物館資料取扱研修会における実践 —兵庫県内のデジタルアーカイブ構築推進に向けて—」、竹内 信[兵庫県立歴史博物館] 吉原 大志[兵庫県立歴史博物館]、6号
- 「文化財デジタルアーカイブ課程フォローアップ座談会」、菟原 雄大[越谷市教育委員会] 國分 梓[郡山市] 野田 真衣[荒尾市役所] 野口 舞[東京都] 福島 幸宏[慶応大学] 福藺 美由紀[福岡市役所] 大矢 祐司[松原市教育委員会] 大西 稔子[栗東歴史民俗博物館] 川崎 志乃[四日市市(当時)] 庄子 裕美[仙台市教育委員会] 小山 侑里子[板橋区教育委員会] 若井 啓奨[三重県埋蔵文化財センター] 三谷 直哉[奈良文化財研究所] 三好 清超[飛騨市教育委員会] 高田 祐一[奈良文化財研究所] 高村 勇士[茨木市教育委員会] 熊谷 葉月[石川県教育委員会] 宮原 由橋菜[福岡市博物館] 吉原 大志[兵庫県立歴史博物館]、6号
- 「文化財デジタルアーカイブ課程受講者アンケートの結果報告」、三谷 直哉[奈良文化財研究所]、6号
- 「学校教育でのデジタルアーカイブ ～文化財のデジタルアーカイブをして感じたこと～」、松下 佑[長野市立更北中学校]、6号
- 「文化財とOECM ～トカゲ学芸員がつなぐ文化財と自然史～」、青木 孝賢[長野市立更北中学校]、6号

■ 図書類・フィルムのデジタル化

- 「図書類・フィルムの電子化」、大橋 秀亮[凸版印刷株式会社]、1号
- 「調査データの活用—整理と公開—」、堀木真美子[公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター]、1号
- 「データの集成と全国遺跡報告総覧との連携利用—『日本列島の旧石器時代遺跡』データベースの場合—」、野口 淳[奈良文化財研究所]、1号
- 「デジタルデータによる図面等記録類の取扱いについて」、[文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門]、2号
- 「奈良文化財研究所におけるフィルムのデジタル化」、中村 一郎[奈良文化財研究所]、2号
- 「文化財デジタルデータ長期保管の実務」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、2号
- 「デジタルデータ長期保存における記録メディアの選択」、高瀬 史則[ソニーストレージメディアソリューションズ株式会社]、2号
- 「文化財デジタルデータ長期保存のためのファイル形式」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、2号
- 「報告書掲載データと Web コンテンツ」、堀木真美子[公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター]、2号
- 「遺跡抄録の現状と注意点」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、2号
- 「文化財業務で使える国立国会図書館の電子図書館事業」、大森 穂乃香・中村 魁[国立国会図書館]、3号
- 「埋蔵文化財情報のデジタル化—岡山県の事例—」、大橋 雅也[岡山県教育庁文化財課]、3号
- 「誰もが資料にアクセスできる博物館 ～資料台帳のデータベース～」、石井 淳平[厚沢部町農業委員会]、5号
- 「ICCRUM 講演シリーズ「文化遺産のための情報とデータ管理」からの学び:柔軟な文化遺産データベースを運用・発展させるための戦略」、井川 博文[ICCRUM(当時)]、6号

■ GIGA スクールと文化財情報

- 「発掘現場と GIGA スクール構想 学習者中心の ICT 活用は埋蔵文化財にどのような変化をもたらすか?」、佐々木 宏展[長野市更北中学校]、4号
- 「学校図書館×GIGA スクール×地域文化財資料」、宮澤 優子[高森町立高森北小学校・高森町

子ども読書支援センター]、4号

「児童生徒を対象とした遺跡情報システム(GIS)の活用」、川崎 志乃[四日市市教育委員会]、4号

「GIGA スクール時代における子どもたちと文化財情報～活用と発信～」、宮澤 優子[高森町立高森北小学校]、6号

「GIGA スクール環境におけるデジタルアーカイブ利用と創作活動の実践例」、佐々木 宏展 [長野市立更北中学校教諭]、6号

■著作権と法的問題

「発掘調査報告書のウェブ公開と文化財の3D データに関する著作権の諸問題」、数藤 雅彦[弁護士、五常総合法律事務所]、1号

「著作権法における資料保存のための複製 –フィルム、ビデオテープのデジタル化を例に–」、数藤 雅彦[弁護士、五常総合法律事務所]、2号

「映像資料の権利処理とその実務」、矢内 一正[東宝株式会社]、2号

「三次元データの公開に伴う著作権等の整理」、仲林 篤史[東大阪市教育委員会社会教育部文化財課]、2号

「文化財動画を YouTube で公開する際の注意点」、矢内 一正[一橋大学大学院]、3号

「制度を使いこなす上での3つのレイヤー」、福島 幸宏[東京大学大学院情報学環]、3号

「映像資料や文化財動画に現れる個人情報について」、矢内 一正[株式会社TBSテレビ]、5号

「文化財デジタルアーカイブに関する権利処理の概観」、数藤 雅彦[弁護士、五常総合法律事務所]、5号

「シン・誰でもできる著作権契約マニュアル」、矢内 一正[株式会社TBSテレビ]、6号

■オープンサイエンスとオープンデータ

「考古学における研究成果公開の動向 –データ管理・方法の透明性・再現性–」、Ben Marwick [ワシントン大学]、2号

「考古学ビッグデータの可能性と課題」、野口 淳・高田 祐一[奈良文化財研究所]、2号

「考古学のためのデータビジュアライゼーション」、石井 淳平[厚沢部町]、2号

「研究者にとってのオープンサイエンス」、中村百合子[立教大学]、2号

「考古学・埋蔵文化財情報のオープン化」、野口 淳[奈良文化財研究所]、4号

「行政オープンデータ推進と文化財分野への展開に向けた一考察」、遠藤 守[名古屋大学]、4号

「日本考古学協会セッションアフタートーク「考古学・埋蔵文化財情報のオープン化のなぜ？誰が？どうやって？」」、今井 邦彦[朝日新聞社] 高田 祐一[奈良文化財研究所] 中尾 智行[文化庁] 中村 耕作[國學院大學栃木短期大学(当時)] 野口 淳[奈良文化財研究所(当時)] 樋上 昇[愛知県埋蔵文化財センター] 堀木真美子[愛知県埋蔵文化財センター] 三好 清超[飛騨市教育委員会]、5号

「考古学・埋蔵文化財にオープンで Tidy なデータがなぜ必要なのか」、野口 淳[金沢大学古代文明・文化資源学研究所客員研究員]、5号

■SNS と情報発信

「SNS と文化財情報 —愛知埋文の取り組み—」、樋上 昇・堀木 真美子[公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター]、4号

「文化財報道と SNS 博物館の「撮影解禁」を取材して」、今井 邦彦[朝日新聞西部報道センター]、4号

「大正・昭和期の在野研究者フィールドノートを CC BY でオンライン公開するまで—赤星直忠考古学研究資料デジタルアーカイブの公開—」、千葉 毅[神奈川県立歴史博物館]、4号

「SNS 利用で効果的に情報発信力を強化する—歴史系博物館・埋蔵文化財センター等の Twitter 開設状況—」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、5号

「埋蔵文化財行政における Twitter の利活用」、村瀬 陸[奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター]、5号

「SNS を活用した遠野市立博物館の情報発信」、長谷川 浩[遠野市立博物館]、5号

■多言語化と国際比較

「文化財の多言語化に失敗しないためには」、Peter Yanase[奈良文化財研究所]、2号

「中国「数字文博」の歩み—考古学・博物館学におけるデジタル施策—」、吳 修喆[奈良文化財研究所]、3号

「韓国と日本の史資料オープンデータの現況と展望—韓国史データベースと国立公文書館デジタ

ルアーカイブの比較を通じてー」、扨 素妍[奈良文化財研究所]、3号

「日本における時代情報の PeriodO への登録」、武内 樹治[立命館大学大学院]、3号

■動画の活用

「文化財の調査と活用のための文化財動画の潜在的な可能性」、国武 貞克[奈良文化財研究所]、3号

「埋蔵文化財保護行政における動画のあり方を考える」、芝 康次郎[文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門]、3号

「文化財動画ライブラリーと YouTubeー文化財動画が効果的に視聴されるためにー」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、3号

「埋蔵文化財センターによる動画の公開」、小久保 拓也[八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館]、3号

「市町村における全国遺跡報告総覧の活用事例ー三重県明和町ー」、味噌井 拓志[三重県明和町役場 斎宮跡・文化観光課]、3号

「平城宮跡資料館における文化財動画の活用」、藤田 友香里[奈良文化財研究所]、4号

■Wikipedia と文化財情報

「ウィキペディアタウンからウィキペディア文化財へ」、青木 和人[立命館大学歴史都市防災研究所・Code for 山城]、4号

「インターネット百科事典「ウィキペディア」におけるデジタル情報の利活用方法」、荒井 翔平[東京薬科大学]、4号

「インターネットで地域の文化財を調べる方法」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、4号

「静岡県沼津市における Wikipedia Town の実践例」、木村 聡[沼津市教育委員会] 市川 博之[Code for ふじのくに／東京造形大学] 市川 希美[Code for ふじのくに]、4号

「文化財×Wikipedia、枠組みと実践」、野口 淳[奈良文化財研究所] 三好 清超[飛騨市教育委員会] 大矢 祐司[松原市教育委員会]、4号

■発掘調査報告書とその公開

- 「発掘調査報告書公開活用の展望」、国武 貞克[奈良文化財研究所]、1号
- 「発掘調査報告書の電子公開による情報発信とその新たな可能性」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、1号
- 「図書館からみた発掘調査報告書」、矢田 貴史[島根大学附属図書館]、1号
- 「発掘調査報告書の公開」、宮崎 敬士[熊本県教育庁]、2号
- 「発掘調査報告書とデータの公開利用 —「記録保存」と情報のフロー、再現性・再利用性—」、野口 淳[奈良文化財研究所]、2号
- 「福岡市における発掘調査報告書のデジタル化と公開について」、今井 隆博[福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課]、3号
- 「全国遺跡報告総覧の課題と展開」、菅野 智則[東北大学埋蔵文化財調査室]、3号
- 「法人調査組織における報告書等の電子化と情報公開について」、松田 直則・山崎 孝盛[(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター]、3号
- 「中津市における全国遺跡報告総覧登録への背景と実務」、浦井 直幸[中津市教育委員会社会教育課歴史博物館]、4号
- 「秋田市における発掘調査報告書のデジタル化と公開について」、神田 和彦[秋田市役所文化振興課]、4号
- 「学生座談会「コロナ禍は、学生の文献収集活動にどう影響を与えたか？次世代の調査研究環境のあり方を考える」」、上山 敦史[駒澤大学大学院] 鬼塚 勇斗[鹿児島大学大学院] 高田 祐一[奈良文化財研究所] 武内 樹治[立命館大学大学院] 津田 富夢[駒澤大学大学院] 野口 淳[金沢大学古代文明・文化資源学研究所] 林 亮太[立命館大学大学院] 溝口 泰久[京都府立大学大学院]、5号
- 「静岡県埋蔵文化財センターの報告書デジタル化の過程と現状」、中鉢 賢治[静岡県埋蔵文化財センター]、5号
- 「「遺跡報告総覧」を通じた国分寺市文化財刊行物の公開」、中野 純[国分寺市教育委員会ふるさと文化財課]、5号
- 「デジタル時代の発掘調査報告書のあり方 —オンライン 3D 報告書を考える—」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、5号

■全国遺跡報告総覧

「数字で見る全国遺跡報告総覧」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、2号

「2020年度数字で見る全国遺跡報告総覧」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、3号

「2021年度数字で見る全国遺跡報告総覧」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、4号

「2022年度数字で見る全国遺跡報告総覧」、高田 祐一[奈良文化財研究所]、5号

「2023年度数字で見る全国遺跡報告総覧」、高田 祐一 [奈良文化財研究所]、6号

デジタル技術による文化財情報の記録と利活用
報告タイトル総目録 2024

発行日 2024（令和6）年6月20日

編集 武内樹治

発行 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
企画調整部文化財情報研究室

〒630-8577 奈良県奈良市二条町 2-9-1
